

CO₂削減計画をたてよう



1日に日本から排出されるCO₂の約13%は家庭から出ています。CO₂削減が叫ばれる一方で、この数字は年々増え続けています。

このままではCO₂の影響で、気温上昇だけでなくさまざまな問題が起こる可能性があります。そのため国民的プロジェクト「チー

ムマイナス6%」では、一人ひとりが普段の生活からCO₂の削減に努めるよう呼びかけています。京都議定書の6%削減約束を達成するためには、各個人が1日15poco削減しなくてはならないといわれています。

日常のあらゆる場面でCO₂を削減するチャンスがあります。自分に合った方法で1日15pocoの削減を目指しましょう。

電気

- ・エアコンの冷房を27度から28度にする…………… 0.5poco
- ・電気便座のふたを閉める…………… 1.0poco
- ・冷蔵庫の詰めこみすぎをやめる…………… 0.7poco
- ・使わないコンセントを抜く…………… 2.4poco
- ・ジャーやポットの保温を1日止める…………… 0.8poco
- ・テレビを見ていないときは、主電源を消す…………… 0.4poco

水

- ・シャワーを1分短縮する…………… 0.6poco
- ・お風呂の水を洗濯に再利用する…………… 0.5poco
- ・使う水道水を風呂桶1杯分少なくする…………… 1.0poco

洗剤やシャンプーを使うと水を汚してしまいます。その水を浄化し、再びきれいな水にする過程でもCO₂は排出されます。油を拭きとってから洗い物をするなどの工夫をしましょう。

交通

- ・車で1キロを徒歩にする…………… 1.1poco
 - ・電車で1キロを徒歩にする…………… 0.2poco
 - ・バスで1キロを徒歩にする…………… 0.5poco
- <車>
- ・発進時ゆっくりとアクセルを踏む…………… 2.0poco
 - ・アイドリングを5分短くする…………… 1.1poco
 - ・運転中に急加速をしない…………… 0.7poco

食品

- ・キャベツ1玉 中国産→愛知産…………… 2.8poco
- ・アスパラガス1本 オーストラリア産→長野産… 3.4poco
- ・豚肉100g アメリカ産→鹿児島産…………… 0.8poco

食品を海外から輸入する際、飛行機や船を使います。日本からの距離が遠ければ遠いほど、輸送に多くのエネルギーが使われ、CO₂がたくさん排出されます。国産のものを食べることは、CO₂排出量の削減につながります。

※CO₂ 100gで1pocoとして換算されます。

pocoという単位を作った「大地を守る会」は、安全な食品をたくさんの人に提供するために活動している団体です。

エドらむ①

江戸時代は資源循環型の社会であり、「エコな暮らし」をしていたことはご存知でしょうか？ 今につながる当時の暮らしぶりをご紹介します。

江戸時代といわず、昭和の中頃までは夏にはよく家々の玄関先の道路が濡れていた。そこを通ると何となく涼しさを肌を感じる一瞬でもあった。それは生活の中から生まれた打ち水の習慣であり知恵でもある。

最近では温暖化が進む中、環境意識も高まり毎年シーズンになると打ち水キャンペーンも行なわれるようになってきた。

しかし、同じ打ち水でも扱う小物によって情緒が変わる。昔は桶に井戸から汲んだ水を入れ柄杓でまいたものである。現代のように水道の蛇口をひねると簡単に水はまけるが、これでは風情がなく、せめて、風呂の残り湯

や、雨水の利用などでエコな暮らしの知恵を継承したいものである。

江戸時代も水は貴重なものであった。緑も多く、川の流れも今より勢いがあり、水温も今より低かったのではあるまいか。当時は川風が緑を伝わり、寝苦しい夜は少なかったと思われる。

打ち水をまく道路はアスファルトなどで舗装され、川の堤もコンクリートの壁となり、昔とはかなり条件は違っているが、将来に負の遺産としないよう、小さな緑を増やしつつ、身近にできる打ち水などは習慣づけたいものである。



高橋 隆さん(西楽鴨在住)
東京都環境学習リーダー
毎年小学校のヤゴ救出作戦でスクールスタッフとして活躍
江戸東京博物館ボランティアガイド